

瑞穂駅の今後に関する市の対応について

1. 瑞穂駅の概要

- (1) 開業：昭和 31(1956)年 9 月 1 日
- (2) 構造：ホーム 1 面 1 線（待合所は地域が設置・管理）
- (3) 停車本数：下り 4 本、上り 4 本（計 8 本）



2. 地域とのかかわりについて

- ・昭和 62(1987)年に JR 北海道と地元自治会長の間で「土地使用貸借契約」を締結。
- ・以降、多寄東自治会（旧瑞穂自治会）により、待合所の清掃や周辺環境の整備などの維持管理を実施。

3. 駅の利用状況（JR 北海道実施調査）

- (1) 特定日調査（過去 5 か年平均）：乗車人員 2.6 名
- (2) 利用実態調査（令和 7 年 6 月及び 9 月実施）
 - ①調査方法：JR 社員による現地での聞き取り調査
 - ②調査結果：定期券利用者 0 名、定期外の利用 1 名（鉄道愛好家）

4. 多寄地区の皆様への意見募集

- ・JR 北海道から市に対し、令和 8(2026)年 3 月 9 日付で、**令和 9(2027)年春のダイヤ改正に合わせた「瑞穂駅の営業終了」に向けた協議の打診あり。**
- ・多寄地区住民に対し、営業終了に対する意見募集のチラシを配布（2 名から下記の意見）
 - ①利用状況を鑑み、営業終了（廃止）の方向で進めてほしい。
 - ②宗谷本線を存続させるため、JR 北海道や国への働きかけを強化してほしい。
 - ③駅舎やホームを交流の場として再活用してはどうか。
 - ④関係人口の増加や二地域居住の推進に向け、駅グッズの製作などを通じて、士別市の魅力を発信してほしい。
- ・本意見募集とは別に、多寄地区（瑞穂駅エリア）で中学生がいる世帯に対し市で聞き取り調査を行った結果、今後瑞穂駅の利用予定はなく、営業終了に関して理解するとのことであった。

5. 瑞穂駅の今後の方針について

- ・ご意見等を踏まえ検討を重ねた結果、利用状況や維持管理コストの負担等を総合的に判断し、**JR 北海道からの提案（令和 9 年 3 月での営業終了）を受け入れる方針とする。**
- ・今後も宗谷本線を維持していくため、沿線自治体で構成される広域協議会等を通じて、引き続き JR 北海道や国への働きかけを継続する。
- ・なお、駅舎やホームの再活用および駅グッズの販売については、維持管理やコスト等の面から、市で実施する予定はない。
- ・上記の方針については、意見募集の結果と併せ、6 月下旬発行の「多寄公民館だより」及び「市ホームページ」にて公表する。